ボクとキミじぁなくてボクのキミになれ

中島まりも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ボクとキミじぁなくてボクのキミになれ

【Ｎコード】
Ｎ１４４７Ｄ

【作者名】
中島まりも

【あらすじ】
学校１の悪魔に捕まった（＞Σ＜）出会いぁあの段ボールの日！！ボクのキミ？オマエぁドＳか？！そんな俺様悪魔だけど…

出会い

ボコッ凹！！

ドテッ（。∇。）？？

イッテェなぁ（ー”ー；）

・・・・ごッ・・・ゴメンナサイッ”（ノ＜＞）ノ

あたし・・・やっちぁった

あたし紅花高校1年中島櫚麻（なかしまろま）

只今ヤバイ状況…

人生で最大にヤバイ…；∇；

同じく紅花高校2年他校でも有名このあたりでぁ敵うものが居ないといわれる…一番ぶつかってぁいけないヒト…てか…怪物？？架縋（かす）由良（がゆら）にこの上ないくらいの勢いで突撃してしまった…みたい…ネ（。∇。）

しかも今ぁ文化祭の季節。

クラス出し物で使う段ボールを大量にかかえたままぶつかった…（。□。；）

あぁ…やらかした
しかも奴ぁキレている…
段ボールの下敷きに…
周りについてたヤンチィたちも唖然……
とりあえず謝った（＞Σ＜）
けど…
奴ぁ段ボールの山から
でてこない……
あれ…??
あたしぁ段ボールの山に駆け寄って、段ボールをかきわけた!
案の定…
もしかして気絶してる?!

出会い2

あたしゃてっきり
気絶してると思った。
んッ？！
でも―まてよ？
さっきぶつかった時
たしかイッテェなぁ！
て言ったよね？！
そのあとに気絶なんて
おかしいよな（´∀｀）
こいつあたしを騙そうと
してるんだ！！！
そう思った。
そして―
あたしゃ由良先輩を
起こそうともせず―
ただ段ボールの
山の上に横たわる
先輩を見てた。

よく見るとマツゲ長ッ！！
いつもゃ遠くで見てるだけ
むしろ近づこうなんて
おもいもしない！！

あぁ―お肌ツルツル！
女のあたしでさえ負けそう
綺麗な顔立ち（◎ｏ◎）

遠くからみた先輩ぁ
いつもイカツイ
ヤンチィだから―
こんな綺麗だなんて
思ったコトなんて
一度もなかった。

今なら1年が
先輩をカッコイイて
言ってたのが―
ほんの少しだけ
分かった気がした。

そんなことを考えていると
ぱちくりと目が開いた！
見つめていたあたしぁ
ビックリして
思わず―――
ゴメンナサイッと大声で叫んだ

すると…

オマエさ～目の前で

ひとが倒れてるのに
なんもしねぇんだ～
酷いやつ！！！
あぁ～オマエウケねぇ
全然ウケねぇ———！！！
引っ掛かれよボケッ！

と冷たく言いはなつと
スッと立ち上がり—
ずりさげた腰パンずぼん
をパタパタとはたいて

おまえ1年？？
名前ぁ～櫚麻か！
ふ～ん———
つまんねぇ奴！！
と言って———

あたしの頭をコツン
と叩き行ってしまった。

3

今日の段ボール事件
を思いだしながら
家に帰った。

タダイマぁ〜！！
家にぁ誰も居なかった。

冷蔵庫に入ってた
プリンを食べながら
部屋にのぼって
ベッドに座ってみた
あぁ今日ぁ精神的に
キターて感じ―
そう思い返していた。

その時
コンコン
ドアのノック
はぁい
ガチャン

由良先輩？？あれ？？
はぁ？どういうこと！！！

櫚麻に会いたくて来た！
何いっちぁってるの??

あたしがパニクってたら
にやりと笑ってから
由良先輩ぁ
あたしの隣に座って
いきなり抱きよせてきた。ヤメテッ！でも力で
勝てる訳がなくて
先輩の右手が
首筋にまわって
イヤらしくなぞってくる。左手でぁ腰をしっかり
抱えられていて動けない。やだぁ——なぞられるたびに
ゾクゾクする（＊—＊）

そうしてる間に
力が入らないことを
良いことに———
今度ぁあたしの
アゴを無理やり
持ち上げて—
キスしてきた
舌がはいってくる
ユックリ動く舌。
ヤバイ頭真っ白〜だんだん手が腰から
移動してく—
最初ぁ腰にあった手が
ブレザーの中に
入ってきた—

くすぐったいよ！！
手をおさえたけど
勝てないー逆に
ベッドに押し倒される。

先輩ぁあたしの両手を
右手で押さえつけ
左手で器用にブラウスの
ボタンを外した。

ヤァダアッ～！！！

気が付いたら
朝だった（ノ△T）

服ぁチァンと着てる

……夢？？

夢だぁ！！！

なんて夢みちぁったの？？

あたし先輩と…エッチ…

昨日のぶつかったせいだ

あぁ学校行きたくない

夢のせいで頭いてぇ～

4（前書き）

コメントお願いしますV（^ー^）V

4

頭いたいままあたしぁ
学校に行った（ーｏー；）

くつばこでシューズを
履き替えながらー
夢を思い出して
体が熱くなった。

朝からあたしおかしいょ

教室に急ぐーーー

でも教室ぁくつばこから
一番遠い場所ーーー

しかも由良先輩の教室を
通らないと行けない

～2－B～前を通る

教室の中に目をやると
由良先輩の姿ぁない

はぁ～

あたしがっかりしてる－

えっ…なんで?!

がっかりなんて
しなくてもイイのに

小走りで教室に
向かおうとして
方向をかえたその時

ボコ凹！

いたッ！！

〜ぅう〜ん———

あへ??

ここどこ??

あっ保健室だ（・◇・）？

え?!でもなんで（・—・；）

あっ！！

たしか……

誰かにぶつかって…

そして……

いたッ…

手を見たら包帯？！

なんで??

あたしケガしたの?

考えていると———

ガタガタ

保健室のドアを開ける音

そして足音がして

カーテンが開いた

は??

……

目を疑った!!!

由良先輩ーーー??

ゴメンナサイッ!

あたしゎトッサに
あやまった。。。

二回目ぇ〜〜〜！！

由良先輩ゎニカッと笑った

オマエさいつもこんな
すぐあやまんの??笑

いやぁ……
ゴメンナサイ……

あ！また！！笑

◆5◆

由良先輩はまた

いぢわるそうに

笑ってる<<>>

もしかして先輩が

保健室に運んで

くれたの??かな…

あたし重いのになぁ…

あっこの手は…??あたし

はおそるおそるきいてみた.

「それ動かしちゃだめだから！」

こっち右手なのに……

「えッ…じゃぁどうやって??…」

あたしが言い終わらない

うちに先輩がいった。

「櫚麻の手が治るまで

俺が責任持って世話すっから！」

はぁッ…???

どうゆこと…??

世話って?!

「だからこういうこと！」

先輩は櫚麻のブラウスを

ヒラヒラさせてる。

あれ…??

そう言えばあたし

体操着だ…!!?

もしかして先輩が…?!

「そうだよ!!俺ーだょ!!」

先輩があたしの質問が

聞こえたかのように

答えた。。

もう外は暗かった。

帰らなきゃ！！

「その手じゃ着替えれないよね??俺が…」

先輩なそう言うと

ベッドに乗ってきた

あたしは隅っこに

ちぢこまった。

「なに恥ずかしがってんの?もう一回見たんだけど！！」

あたしは恥ずかしくて

布団に潜った。

すると先輩は優しく

布団をとった。

「大丈夫みないから！」

「本当に??」

由良先輩は優しく

あたしの肩に触った。

触られてるだけなのに

昨日の夢を思い出して

ウズウズしてきた。

先輩は優しく上の体操着を
めくった。あたしは
顔が真っ赤！！
「可愛い！！こんなこと
初めてなんだね！」
先輩はちょっといぢわる
そうに笑った。
ついに上はブラだけに
されてしまった。
「早くブラウス着せて
ください！恥ずかしい！」

先輩はなかなか着せて
はくれない。むしろ
あたしの胸をじっと
みている。
「可愛い胸やなぁ！
触っていい？？」
（ノ△＼）／／
あたしが胸を
隠そうとしても
うでが動かないから無理。
先輩はブラの上から

乳首を指で軽くつついた。

「やだぁ――！」

あたしは必死に

体をよじって逃げようと

しても先輩と壁の間に

追い詰められていて

にげれない。

すると今度は手のひらで

胸を包むように

優しく揉んできた。

「んッぁ…やだぁッ！」

「本当に嫌がってるようには
見えないけど??」

そう言うと

ブラを上にずらして

生で触ってきた

乳首は触らず周りだけ

ぢらすように触られる。

「やぁッ…んッ」

初めての感覚に頭が

くらくらしている。

「乳首たってるやん！そんなに
さわってほしいんか？？」

先輩ぁ乳首を指で

摘まんでクリクリする

あたしは力がぬけて

ベッドに倒れこんだ

先輩はすかさず

上にまたがってきた。

6（前書き）

コメしてくれたらすぐ返事します！！

6

右手ぁ乳首を摘まんで
左手であたしが動く
のを押さえてた。
先輩はあたしの
乳首を舌の先で
つつくようになめた。
「やんッ頭がおかしくなるッ」
「そのまま感じてろ！」
そう言うと，

今度は乳首を口で

吸って舌で転がして

軽くあまがみされる。

「お前感じてんの??」

「ちが…うも…んッ!!」

「これでも??」

先輩は乳首を指で

クリクリしながら

へその下を

舐めてきた。

「…ッやぁ！！」

「こんなに感じて，下は??」

先輩は体操着のズボンの

中に手を入れた。

先輩の指が触れるか

触れないかくらいで

アソコ全体を包むように

さわってくる。

「気持ちよきしてあげるね」

そう言うと，割れ目を

ゆっくり下から上に
なぞった。
そして，ときどきクリクリ
強くおす。
それだけでも，
頭がおかしくなりそう。
先輩はズボンをゆっくり
脱がせた。
パンツとブラだけに
されたあたしは

目を固くつぶっていた。
すると，脚が開かれて
パンツの上から
指を割れ目におしこむ。
それがクリに触れるたび
体がふるえた。
すると，指がパンツの横
から入ってきた。
生で初めて触られる。
指でピラピラを摘まんで

引っ張ってる。

いやらしい音がでてる。

ついにパンツも

脱がせた。

脚がまた開かれ，

先輩はじっとみてる。

「みないで！！」

「みるし！中はどうなってんの？？」

先輩は意地悪そうに言って，

右手で割れ目をぱっくり

開いた。そして，左手で
器用にクリを摘まんで
引っ張った。
クリは膨れていて
赤くなっていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1447d/

ボクとキミじぁなくてボクのキミになれ

2010年10月15日09時07分発行